

# 人権の参加型学習 「違い」の検討

上杉孝實

# 1. 人権教育の動向

- 誤ったとらえ方の是正
- 見方の変容



- 講義
- 地区懇談会
- 参加型学習

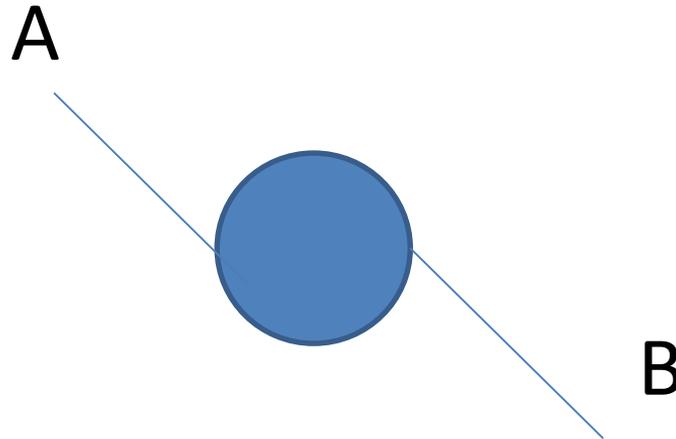
## 2. 学習の型

- 講義型・・・体系的学習、知識の習得
- 参加型・・・主体的学習、多様な考えについての気づき

### 3. 参加型の意義

- 社会事象のとらえ方

立場によって見える部分が異なることがある  
多様な考えを知ることから視野が広がる  
広い視野から適切な判断をすることが可能



## 4. 参加型の内容

- 懇談会方式・・・話し合い  
小集団討議  
ワークシートの利用  
ゲーム的手法
- ワークショップ・・・共同作業  
課題の提示  
意見の整理・・・KJ法など
- フィールドワーク・・・実地学習
- 役割演技(ロールプレイ)

# 5. ファシリテーター

- 学習の促進役

講師、助言者との違い

学習過程の重視

場づくり、引き出し、気づき、受け止め

コミュニケーションの円滑化

## 6. テーマ例

- うわさと差別
- 「違い」と「差別」
- 「同じ」と「平等」